

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791800036		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	グループホーム ウェル浪花 (ユニット1)		
所在地	〒550-0024 大阪府大阪市西区境川1丁目1-15		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	平成24年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣は商業地域により、徒歩圏内で外食や買い物などの外出支援ができ、地域との交流を図ることにより社会への参加と閉じこもりを予防していきます。
 日々の生活で笑いの絶えないホーム作りを目標に毎日レクリエーション活動を行い、また身体機能の低下を防ぐために洗濯、掃除など日常生活の動作を一緒に行っています。
 医療については、配置看護師による健康管理とホームドクターとの連携を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2791800036&SCD=320&PCD=27
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、大阪市内の商業地にあり周辺道路の交通量も多く、安全に暮らせるように考えながら、地域との交流を図る努力をしています。法人理念に合わせホームとしての理念と目標を毎年評価し振り返る機会をもち、利用者や家族、職員がコミュニケーションを取りながら、一人ひとりがその人らしく過ごせる為にどのように支援するか問題点や課題を意識し笑顔の絶えない生活を支援出来るように職員各自が考え実践しています。ホームでは湿度温度にも気を配ったり、看護師の職員配置があり、日々入居者の健康維持に努めています。ホーム内では明るいリビングで利用者と職員と一緒に作品作りをしたり家事をしたりと、今までの生活習慣や趣味が継続出来るような支援がなされています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年2月6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.自分らしい安心できる生活をお手伝いします。 2.入居者の尊厳を守ります。 3.地域との連携に努めます。 以上の運営理念を玄関に掲げ、いつも眼につくようにしている。職員会議等でこの理念のもと常に意思の統一を図り、日々の介護で実践している。	法人の理念を基に利用者のペースに合わせゆっくりと支援し失礼のない声かけを行う事で、安心できる笑顔の絶えない環境作りを心がけ『プロのいる家庭を目指す』事を目標に職員教育を行っています。又、朝のミーティングで理念を共有し支援を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商業地域に立地のためか、地域との関わる機会が少なく難しいが、民生委員の紹介で盆踊りに参加させて頂いた。今後もっと交流をもてるよう努めたい。	散歩に出掛けた時には挨拶を交わし、町内会主催の新年のつどいや夏祭りの参加したり、月に1度紙芝居や体操のボランティアに来ていただいたりと地域との交流を図っています。今後子ども達との関わりを企画しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商業地域に立地のためか、地域との関わる機会が少なく難しいが、散歩時の挨拶から始めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	西区地域包括支援センター・民生委員・ご家族の参加により、ホームからの報告に対してご意見を頂いている。	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、家族、地域包括支援センター職員、民生委員等の参加を得て、事業所の入居状況、行事報告、事業所での生活の様子を写真、動画にて説明しています。隣接する薬局からインフルエンザの話をしてもらったり、消防訓練を兼ねて行うなど工夫して行われています。家族からの意見を頂き出来る事から改善しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は連携が取れていないが今後協力関係を築けるように努めたい。	市町村との連携は十分ではありませんが、地域包括支援センターに困難事例などについての相談を行っています。今後市に現状報告等の報告相談に行く予定です。	今後、市町村への運営推進会議の報告から始められる等、関わりが深められることを期待いたします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを目指しているが、”拘束とは”を皆が正しく理解するように、まず管理者が外部研修等で積極的に学び、説明・教育するようにしている。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、法人が行う研修に参加し職員が理解できるように取り組んでいます。事業所は交通量の多い場所に位置し、出入り口は全て施錠していますが、利用者の行動を止めることなく見守り、表情を見ながら職員が一緒に外出しています。	ユニットやエレベーター等の施錠を行わないようにするために、どのように関わるかを考えて対応できるように、検討されてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待行為をしたことはない。皆がより正しく理解するように、まず管理者が外部研修等で積極的に学び、説明・教育するようにしている。		

グループホーム ウェル浪花（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まず管理者が当該事業や制度の内容をよく理解することから始めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・利用契約書を文書で示し、理解して頂いているか疑問点の有無の確認しながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は利用者との日ごろの対応・会話を通じて、苦情・不満などを汲み取るように努めている。それらをスタッフ会議でオープンにし、利用者の思いに応えるようにしている。外部へ表せるルートは殆どが家族であることから、家族の声にも真摯に取り組んでいる。又、契約時に苦情受付窓口について説明している。	家族の面会時に個別に意見をもらったり、面会のないご家族には往診の結果、生活状況を報告する際に意見を聞いています。又、アンケートを取り、得た家族や利用者の要望をケア会議に出し実践に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の勤務の様子や言葉から思いや考えを汲み取り、職員会議の議題に取り上げ業務やケアに反映できるよう努めている。	管理者は日頃から職員に声をかけたり、コミュニケーションを図っています。月に1度の職員会議では事例検討も行っています。職員が自己目標・行動計画を作り提案や意見を聞き実践に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と幹部従業員が参加する会議を月に一回設けており現場の状況を細かく連絡報告説明を行っており、不具合の発生には早急な対応ができるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修・管理者研修・リーダー研修等を計画的に受けさせている。 新人研修は内部研修として取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム運営協議会を立ち上げ、情報交換・勉強会の場を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の問い合わせの段階では本人の困っている内容について本人のペースで語って頂き不安の内容をよく理解するよう努めている。利用勧誘を前面に推し進めないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の問い合わせの段階では家族の困っている内容について家族のペースで語って頂き不安の内容をよく理解するよう努めている。利用勧誘を前面推し進めないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方はグループホーム利用が適切なのかどうかを冷静に判断できるような立場にたって相談者の話を傾聴している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬語を使って会話することを基本にしているが、家庭的な環境の中で共同生活をする中で、時には家族のように接し、スタッフと入居者の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の連絡はもとより、月に一度は健康状態や生活の様子(写真で)をお知らせしている。法人の他グループホームの様子も分かるようなフレンド便りも送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーへの買い物や、花見や散歩に公園へ行くことがある。	昔馴染みの友人や近所の方の訪問、行きつけの美容院の方が髪を整えに来てくれたり、誕生日には家族の訪問もあり一緒に食事をし、宿泊されるなど、馴染みの関係を途切れることなく支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が食事等できるような座席配置を工夫したり、洗濯物たみ・昼食・おやつ作りなどを気持ちよく関わり合えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院されている方のお見舞いも欠かさずに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴を尊重し、思いや行動を最優先している。	入居前に出来る事や出来ない事、日課、習慣、好み意向等をアセスメントし様式を利用して情報収集し、まとめ利用者や家族の思いを把握しています。日々のケアを通して言動から心情を汲み取り利用者本位の生活支援に向けて職員間で共通認識を持てるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに活用する意識をもって、ご本人、ご家族からの断片的なお話も可能な限り詳しくお聴きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身の状態を常に職員が把握し、適切なケアの実践を行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援が行えているかを評価し、また、ご本人・ご家族の思いを聞いたうえで、その方に適切なケアのあり方を職員と話し合い改善している。	介護記録、本人・家族の思いを基にカンファレンスを行い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。又、主治医からの情報をもらい3か月毎にサービス評価を行い、実施状況、達成や本人の満足度を確認し、今後の方向性を検討し介護計画の見直しを行っています。	介護記録はプランに沿って分かりやすい記録になっていますが、アセスメントは初回のみとなっているため、今後アセスメントシートのさらなる活用を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居前、入居後のアセスメント情報の共有化を図っている。介護計画をもとに実践し、日々の様子を個別に記録している。 定期及び改善が必要な時は、カンファレンスを通じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の施設等が他府県にある為取り組めていないのが現状であるが、24年春には近隣に系列のホームがオープン予定であるので今後は合同での催しを企画し参加して頂けるよう取り組んで行きたい。		

グループホーム ウェル浪花（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの申出があったとき、利用者の必要性を考慮してお願いしている。実例は体操である。今後は、こちらから地域資源を発掘していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	整形外科・眼科等の受診が必要な場合は家族に連絡をし希望があれば受診を行っている。歯科については訪問歯科受診を行っている。	入居時にはかかりつけ医について説明し選んでもらっています。提携医は週2回の往診があり、医師とは24時間連絡が取れる体制にあり、日常的には看護職員が健康管理を行っています。又、通院が必要な方についても状況に応じて支援を行っています。歯科も状況に応じ訪問診療を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、介護者・看護者の連携から双方の気づきを確認しケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族・往診医・入院先の担当医との連携が密に出来るように仲立ちし、早期の退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定している。ターミナル状態が近づいた場合は関係者によるカンファレンスを行い書類を作成して取り組んでいる。往診医は24時間体制での対応をして頂ける。	重度化について、ホームでできる事の説明を行い、医師及び家族と話し合いできる限りの事を行っています。個々の状況に合わせた承諾書をもらいカンファレンスを行い職員間で共有し利用者と家族の意向に寄り添う支援を行っています。今までに家族、職員が協力し看取りを行った経験もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	焦らずに対応できるように、対応マニュアルを整備・配置している。定期的に訓練を行い実践力を高めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所に災害時対応手順を掲示している。避難訓練は年2回、近隣への連絡後に行っている。	年2回消防署の指導の基、各階ごとに通報から避難場所の確認、連絡網について昼間・夜間を想定した内容の訓練を行っています。又、警報が鳴れば近隣の薬局の方の協力が得られる体制を構築しています。スプリンクラーの設置及び備蓄品の準備もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し個人の個性に合わせ共感した対応をしている。	利用者一人ひとりに尊敬の気持ちを持って対応しています。言葉遣いについては、本人が認識できる呼び方をしています。接遇等の研修を行い、日々の対応では不適切な対応については個別に指導を行っています。また、同性介護にも対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を楽しく感じて頂けるように、起床時や入浴後の洋服選び、食事の献立への希望、アクティビティ参加選びの声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を基本にアドバイスや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考えた上で、食べやすさや見た目の良さの工夫、入居者の好み、行事食や誕生日食等でメリハリをつけている。一緒に調理や片付けを楽しむことも重要と実行している。	毎日の食事は在る食材で職員が工夫し献立を考え調理を行っています。ユニット毎に献立も異なり、食事の盛り付け、後片付け等職員と一緒にいき、食卓では職員が見守りしながら食事をしています。食材の買い物も一緒に出かける事もあります。毎週日曜日には希望を聞き、鍋や焼きそば、ちぢみなどを一緒に作り楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態や体重増減を考慮して調理に反映している。水分摂取は時間を決めずにコマメに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持を図っている。 できることはご自分で行っていただき、できないところを援助している。		

グループホーム ウェル浪花（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を減らすように、個々の排泄パターンの把握をトイレ誘導している。	利用書一人ひとりの排泄パターンの記録を取り把握し、個々に合わせて排泄の誘導を行っています。又排泄のサインを見逃さないようにし、排泄の自立に向け支援を行っています。オムツから布パンツに変える事により皮膚トラブルも軽減、排泄の失敗も少なくなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維の摂取を意識している。便秘予防を説明し水分摂取はコマメに促している。運動等による腸の活動を促す様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の入浴の時間や回数に添えるよう準備している。安全に楽しんで入って頂けるように見守り、脱衣所や浴室の戸を閉めプライバシーにも配慮している。	基本的に毎日入浴できるようにしています。順番も希望を聞いて対応し、季節に合わせて袖子風呂等を取り入れたたり、声かけの工夫をしてゆったりと寛げる入浴になるよう配慮しています。又、職員と一緒に銭湯に出かけることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活活動を促し適度な運動量を確保できるように支援し、スムーズな入眠を配慮した生活リズムをつけられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師や家族から説明を聞き医師の指示通りに服薬して頂けるようにしている。症状の変化にはその都度記録し医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人との会話や生活歴・思いを汲み取り個々にアクティビティーを選択している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・外食・外出等を職員や家族と随時行っている。	天気の良い日には屋上、テラス等で外気浴を行い、散歩は状態に合わせて行く等外に出る機会を大切にしています。更に外出行事として全員で行うものと個別に行うものがあります。外出先も希望を聞いたり、買い物の習慣のある方には、近くのデパートに出かけるなどの支援を行っています。	

グループホーム ウェル浪花（ユニット1）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している方には支払い時に職員がお手伝い一緒に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次ぐお手伝いしている。携帯電話をお持ちの方は自分でかけておられる。使い方が分からないと言われた時お手伝いさせて頂いている。手紙は切手を準備し投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに観葉植物を置き緑が見えるようにしたり、季節感を感じて頂けるよう飾りずけもしている。他の方と自由に談話やTVを楽しめるように家具の配置にも工夫している。	共有空間は、利用者が作られた作品等の飾り付けがなされ、廊下には温度計、湿度計、加湿機があり、ユニット毎で生活している方に合わせた環境が整えられています。リビングにはソファを置いたり、利用者同士の相性等を配慮し、都度席替えをして心地よく過ごせるように工夫してます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のテーブルや椅子の位置に配慮し、必要な時には移動するなど、居場所作り工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持ってきていただくよう、お勧めしている。	自宅で使い慣れた、気に入っている家具やベッド、絨毯を設置したり、家族の写真や趣味の作品を部屋に飾り、一人ひとりにあった居心地の良い空間を工夫しながら支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全な環境になっている。		